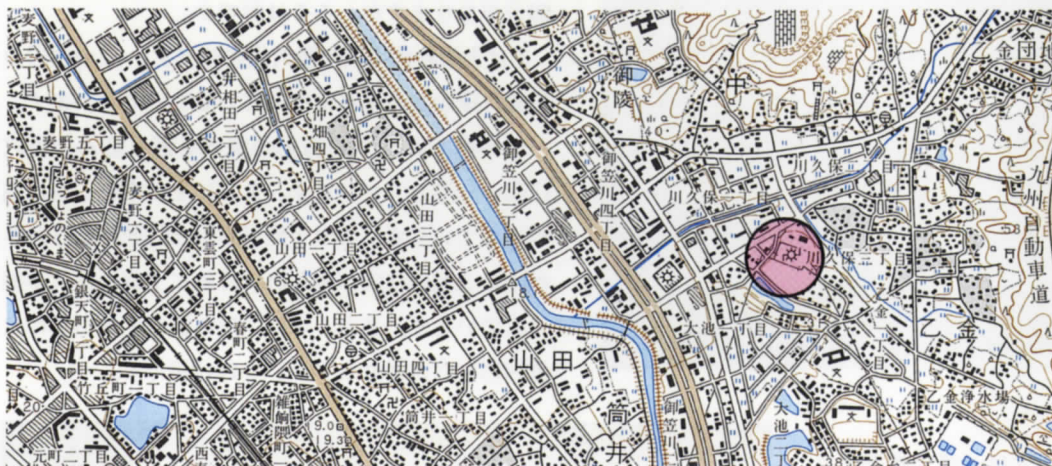


もり その 森 園 遺 跡 1

大野城市教育委員会



森園遺跡の場所 (1/25,000)

森園遺跡は川久保3丁目に所在する九州電力の変電所（通称、^{なか}中の変電所）構内と、その西側の斜面にあった遺跡です。約40年前、この場所で変電所の工事が行われた時に遺跡が発見されたというのですが、その時は調査も行われず、くわしいことはよくわかっていませんでした。数年前に、変電所の増設工事や、会社の事務所建築工事が行われることになり、教育委員会が事前に発掘調査を行いました。この「森園遺跡1」のシートでは変電所構内の調査の結果を、No.15「森園遺跡2」No.16「森園遺跡3」のシートでは変電所の西側斜面の調査結果を紹介することにしましょう。

変電所構内では、主に弥生時代の住居跡と古墳時代の住居跡が確認されました。最初に変電所の工事が行われた時には、弥生時代の^{かめかん}甕棺が出たということが伝えられていましたが、調査では甕棺は全く確認されませんでした。



1は壁を失った直径約8mの弥生時代中期の円形の^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡です。しかし、土地がひどく削られていたため、もともと地面に掘り込まれていた円形の壁がなくなっています。竪穴の壁に沿って円を描くようにして柱穴が掘られていますが、この柱穴は削られることをまぬがれたので、竪穴住居であることがわかりました。中心部分の大きな穴も柱穴の一つで、底に人の頭大の石を置いてありました。



2も弥生時代中期の円形の竪穴住居跡で、高さ約45cmの壁が残っていました。しかし、残念ながらこの住居は約半分が発掘調査地の外に出てしまっていたので、完全な形で掘り出すことができませんでした。大きさは直径約8mです。壁に沿って細い溝が一周しています。床の中心には熱により赤くなった部分がありますが、ここは^ろ炉です。

3は古墳時代中期の竪穴住居跡です。この住居の特徴は床が2段掘りになっていることです。まず、一辺が約6.5mの正方形の竪穴を掘り込んで竪穴住居の外形としています。さらにその中を \square 形に掘り込んでいます。この1段下がった \square 形の掘り込みの中に3個の柱穴が掘られ、外側に1個の柱穴が掘られています。また、この \square 形の掘り込みの中には楕円形の穴がありますが、これは炉です。

4は一部を破壊されてしまっていますが、古墳時代後期こうきの正方形の竪穴住居跡です。柱穴は4つあり、手前の壁には竈かまどが作りつけられています。

5はこの竈の部分に接近して見たところです。竈の壁に使われていた粘土と、土器が残っていました。

